

●題名

2014 年 7 月 12 日～13 日 仁田元川仁田元沢遡行

●参加者

上小牧(リーダー)、落合、小濱、松村(サブリーダー、記録)、会員外 3 名

●行動記録

なし

●ルート選定

沢で泊まる練習として、易しい沢を選んだ。

仁田元沢は、最近のガイド本には載っていないマイナーな沢である。

下部は白い花崗岩が美しく、上部は原生林に癒される沢であった。

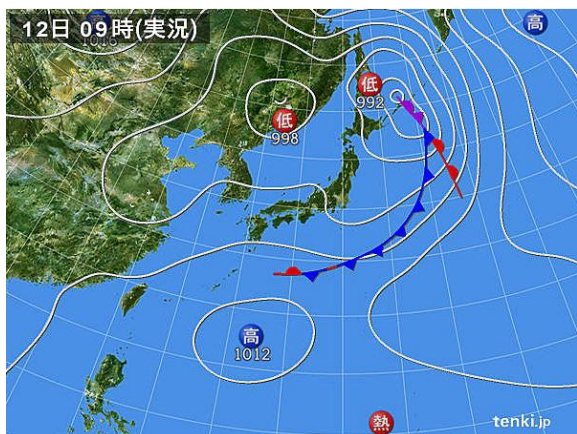
仁田元沢を遡行し、1260m 二俣で泊。翌日は庚申山頂上を踏み、登山道を銀山平へ下山した。

仁田元沢の北側の尾根を下降する選択肢もあった。ただ、入渓点あたりでは崖(岩稜)だったので、ルート選択に注意が必要である。

●天気図

12 日は台風一過で晴れた。夜は非常に暖かく、シュラフカバーさえ不要だった。

13 日は朝から曇り空。途中から雨。



●写真と記録

銅親水公園から出発。一度松木川の方に入り、橋を渡って仁田元川沿いの林道に入る。

1 時間強で入渓点。



最初に堰堤を越える。4m くらいの段差を降りるので、ロープを出した。

明るい沢で雰囲気がい。川幅は広く、岩は花崗岩のスラブっぽい。巨岩が多い。





滝と呼べるのは2〜3か所であったが、いずれも容易に巻ける。
途中の開けた河原で昼食。そうめんを食べる。



増水しているせいか、多くの支流が仁田元沢に流れこみ、現在位置の特定が難しかった。
1260m 二股付近の幕営適地で泊。



拾いきれないほど多くの薪があった。たき火のやり方を教えて頂く。①大きな木を置き、その上に小さな枝を並べる。上部ほど枝を太くしていく。②沢の上流から下流に風が吹くので、その方向にそろえて木を並べる。③火がつきにくい場合は、木のサイズを揃え、小枝を取って棒状にする。④着火剤は便利。

1260m 二股の直後に見事な連曝帯がある。容易に巻ける。



1400m 二股あたりから水量がぐっと減り、原生林の中、源頭部の雰囲気になる。ルートは左(西)であるが、右(北)の笹が生い茂る様子を見ると、その先がウメコバ沢の岩稜帯へ続いているとは信じられない。尾根向こうの松木川流域と対照的である。



1650m あたりから笹の藪こぎになる。左に尾根が伸びているが、間違えないように鞍部を詰めていく。(獣の?)踏み跡があり、非常に歩きやすい。

1745m 鞍部から方向を変え、尾根伝いに庚申山を目指す。



雨の中、登山道を下山。

出だしは奇岩が多い。標高を下げると川沿いを歩くようになる。深山幽谷の趣があり良い。庚申沢の遡行にも興味が湧いた。